

ムラづくり

その先に見えたもの

平成20年のスタートです。少子高齢化が進み、地域の存続が危ぶまれる昨今。本市には、輝きを失わず、活発な活動を続ける団体が数多くあります。その中から、5人の方をお招きし、新春座談会を開催しました。テーマは、「ムラづくりその先に見えたもの」です。本号は、7ページまで「特集新春座談会」として、その内容をお知らせします。※敬称略

市長 新年明けましておめでとうございます。今日は、市内で地域づくり活動を進める団体の皆さんにお集まりいただきました。皆さんが行う地域づくり活動をご紹介いただき、これからの新しい地域づくりの形を話し合いながら、未来像を一緒に描いていきたいと思えます。

畑自治会や久慈市漁協二子漁業生産部、バッテリー村などの独自の地域づくり活動が認められ、農林水産大臣表彰、総務大臣表彰などを受賞しました。

地域の輝きが少しずつ形になって現れていることを感じ、うれしく思います。その一方で、少子高齢化による人口減少などにより、地域を取り巻く環境は厳しいものがあるのも事実です。

そういった中、皆さんは地域に活力を与えるべく、先立ちとなって地域づくりを進める方々です。皆さんが今までに取り組んできた活動についてご紹介ください。

小倉 大川目町まちづくり協議会では、約35年間途絶えていた手づくり山車を新たに備前組として復活させました。早くも8年が経ちます。最初には実現できるか不安でしたが、少しずつみんながついてきたんです。そして、復活したときは、眠っていた大川目が音を出して動き出したようでした。多くの人の「結集」のたまものだったと思います。

大久保 夏井川堤の景観を創る会では、夏井の環境を守る取り組みを主に行ってきました。会発足当時(平成7年頃)の夏井町は高齢化が進み、田んぼ、畑が荒れ放題の状況でした。住みよい環境に変えないため、ハウレンソウのビニールハウスを導入しました。家族が一緒に労働して収入が得られるようになったんです。また、農家の家族経営は労働に対して収入が見合わなかったりするので、関係機関の協力で家族経営協定を家族で結び、休日や収入もしっかり決めました。労働の場でもあり、家族・近所の人が集う場所にもなりました。



ひざを交えて対談する出席者の皆さん

いと地域の人と一緒にあって、荒地に1万本のコスモスを植えました。また、川原も春に野焼きをしました。すると、新しい草が生えてきて、水の浄化が図られたんです。昔のようなきれいな水が戻り、そこに新しいコスモスという景観が加わりました。そして今では、この環境を守る活動に地域の子どもたちも参加してくれているのがうれしいことです。

中平 二子漁業生産部では、安定した出荷体制と役割分担を進めてきました。漁業というのは、漁に出た者が収入を得られます。高齢者になると収入が得られないため、生産部全体の底上げになりません。改革のアイデアはいろいろ出るのですが、データが乏しく実行できないのが課題でした。3-4年前からデータ収集を少しずつ始め、今は若者、高齢者が役割分担する体制を作っています。